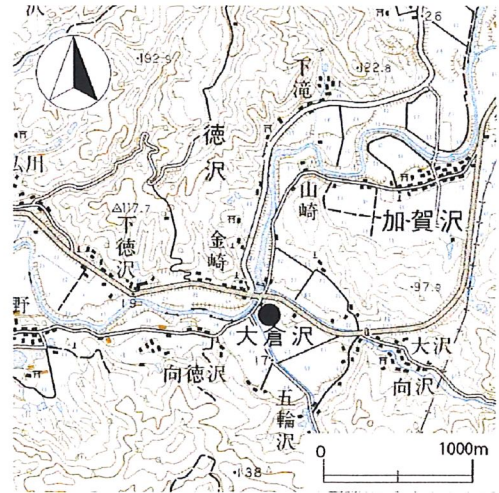


# さいかみ 才ノ神遺跡（令和2年度）発掘調査資料



調査区全景（南から）



遺跡の位置（●印）

## 1 調査要項

所在地	秋田県由利本荘市徳沢字才ノ神63-2外
遺跡状況	荒蕪地
調査面積	1,250m <sup>2</sup>
遺跡時期	旧石器時代、縄文時代（前期）
遺跡の性格	旧石器時代：石器製作跡、縄文時代前期：捨て場
調査目的	河川改修工事（芋川）に係る埋蔵文化財事前調査
調査期間	令和2年6月2日～9月30日
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当	秋田県埋蔵文化財センター 文化財主任 巴亜子、学芸主事 赤上秀人
調査総務担当	副主幹 柴田優、主事 渡辺昂
調査協力機関	秋田県由利地域振興局建設部、由利本荘市教育委員会

## 2 検出遺構と遺物

検出遺構		主な出土遺物
旧石器時代	石器集中部 1か所	旧石器時代 ナイフ形石器、石刃、剥片、原石
縄文時代	前期	縄文時代
	捨て場 1か所	土器（前期）
	焼土遺構 3基	石器（石鏃・石匙・石篋・石槍・石皿・敲石・石錘・石核等）
	土坑 4基	
	溝跡 1条	
	柱穴様ピット 38基	

### 3 調査結果の概要

オノ神遺跡は、子吉川の支流芋川左岸の河岸段丘上に立地します。標高は約20mです。芋川の旧流路は、江戸時代中期までは北西から南東に張り出す丘陵を迂回するように流れていました。元文年間（1736～1741）に新田開発のため遺跡の西側を開削して、現在の流路になりました（①）。



オノ神遺跡の発掘調査はこれまで3回行われています。昭和54（1979）年の国道105号線バイパス工事に伴う調査では、たてあな堅穴建物跡13棟、ものあと土坑8基等が検出され、縄文時代前期及び中期の集落跡であることが分かりました。立ったままの状態<sub>せきぼう</sub>で出土した長さ73cmの石棒は、貴重な事例として注目されています。



平成29（2017）年の本荘消防署大内分署建設事業に伴う由利本荘市教育委員会による調査では、縄文時代前期の堅穴建物跡や土器埋設遺構どきまいせついこうのほか、さらに古い時期である縄文時代早期の

焼土遺構なども検出されています。

令和元(2019)年の調査では、焼失家屋を含む竪穴建物跡10棟、土坑14基などが確認され、縄文時代中期の集落跡が検出されました。

今年度の調査では、約3万年前の旧石器時代の石器集中部1か所、縄文時代前期の捨て場1か所、焼土遺構3基、土坑4基などが確認されました。

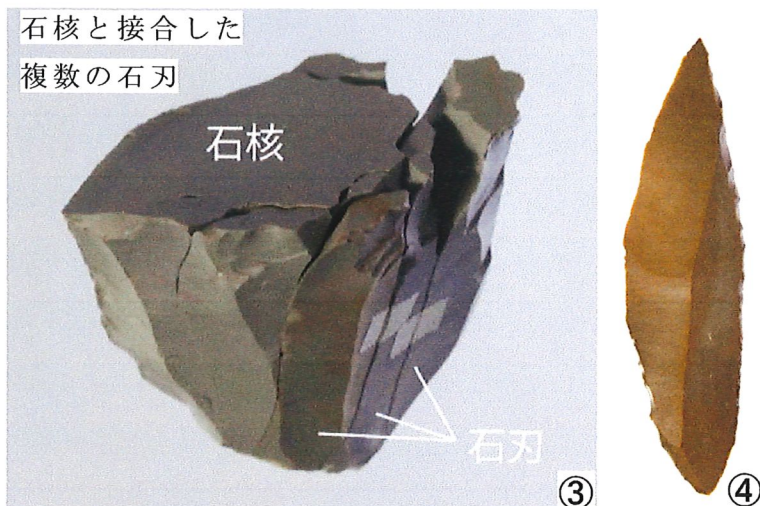
旧石器時代の石器集中部は、調査区中央の約8m四方で確認しました(②)。そこからは石器の素材となる石刃や母岩である石核等が423点が集中して出土しました。石核と石刃の接合関係から、打面の再生を行いながら、単一方向から石器の素材となる石刃を連続して剥ぎ取っていたことが分かりました(③)。石器集中部の範囲外からも石刃を素材とし、折り取り両側縁に刃潰し加工が施された二側縁加工のナイフ形石器等が出土しました(④)。石刃や剥片の石材は、珪質頁岩が主体で、玉髓の原石もありました。石核や剥片を含む石器の総点数は800点を超え、調査地は石材を採取し、石器を製作した場所であったと考えられます。

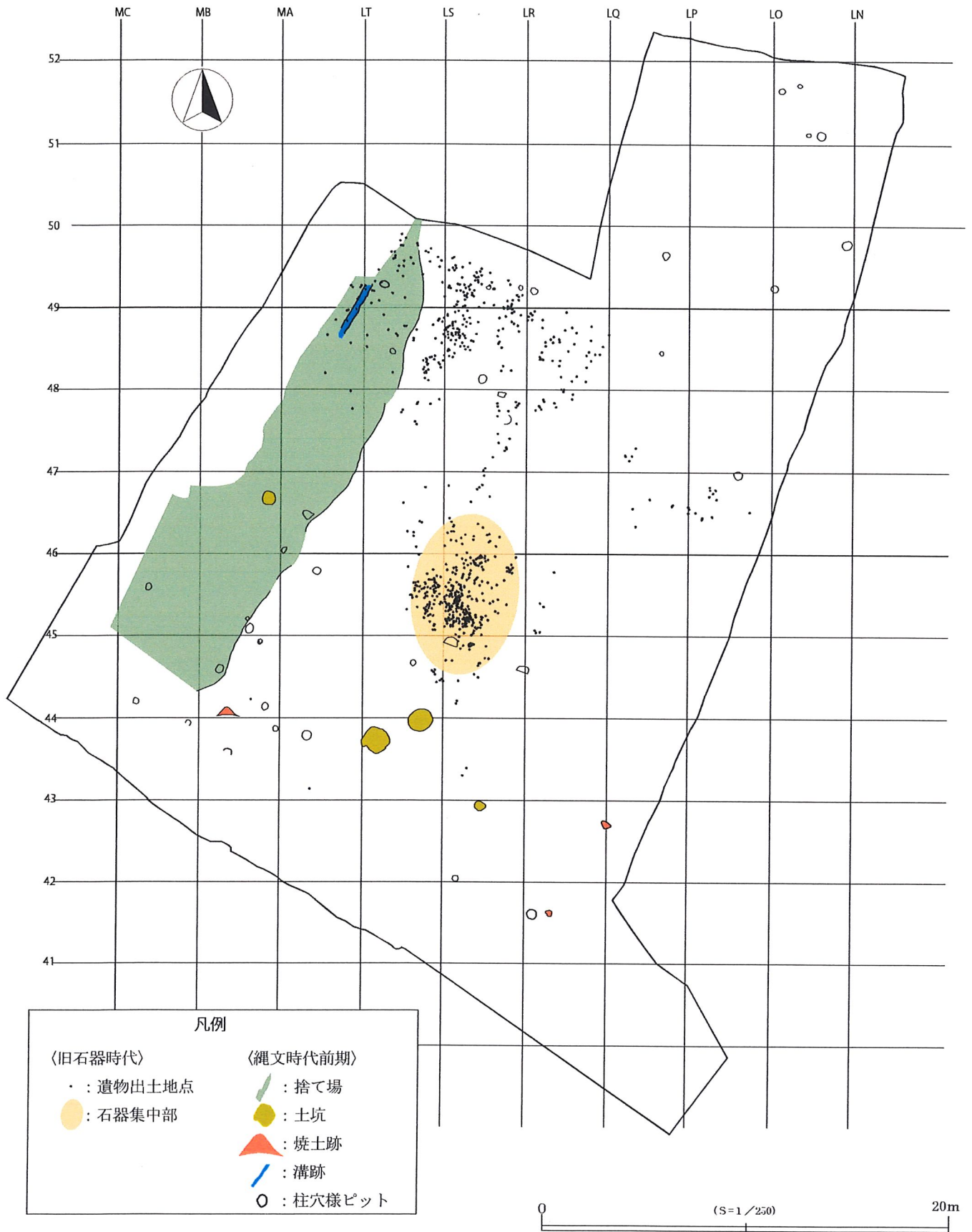
縄文時代前期の捨て場は、調査区の西側で東西2m、南北25mにわたって確認されました。捨て場からは、縄文土器、石器等が多量に出土しました(⑤)。調査区中央には北から南へ流れ出る沢が確認されており、捨て場はこの沢の西側斜面地に形成されていました。この斜面のさらに西側に当時の集落があると推定されますが、今回の調査では縄文時代前期の竪穴建物跡は検出されませんでした。

また、捨て場の東側で検出された直径約1mの土坑からは、重量が80kg以上の珪質頁岩の巨礫が出土しました(⑥)。土坑内からは礫が他にも複数出土しており、墓や貯蔵穴の可能性がります。

2か年の調査により、縄文時代前期までは、沢地形そのものを活動の場とし、中期以降は沢地形が埋没した後の緩斜面地に集落が作られていたことが分かりました。

石核と接合した  
複数の石刃





オノ神遺跡遺跡遺構配置図

編集・発行  
秋田県埋蔵文化財センター  
〒014-0802 秋田県大仙市払田字牛嶋20  
令和3年3月発行